JISA 関東地区会 開催報告

令和 8 年 10 月 27 日（火）、山梨県甲府市のシャトレーゼホテル談露館において令和 8 年度関東地区会が開催された。参加者は関係者含め 47 名であった。



関東地区会
代表幹事
井上 清美氏

冒頭、関東地区会 代表幹事（株式会社ブリリアント 代表取締役）井上 清美氏が開会の挨拶を行った。「本日は全国各地より多くの方々に山梨へお越しいただきました。交流を深め、有意義な会としていただきく存じます」と述べた。

続いて、来賓としてご臨席いただいた山梨県知事　長崎 幸太郎氏よりご挨拶をいただいた。「山梨県は中小企業の生産性向上を目指し「地域内発型 DX」を推進しています。セキュリティ問題については皆様の力をお借りして強靭性の確保に向けた取り組みを進めていきたいと考えています」と述べた。



山梨県知事
長崎 幸太郎氏



JISA 副会長
((株)野村総合研究所
取締役会長)
此本 臣吾氏

次に、JISA 副会長（株式会社野村総合研究所取締役会長）此本 臣吾氏が挨拶を行った。「高性能なオープンウェイトモデルの普及によりサイバー攻撃の脅威が急増しており、日本企業は脆弱な IT 資産を狙われやすい状況にあります。対策として IT 資産の全容把握と脆弱性診断、迅速なパッチ適用が不可欠です。また、バックアップデータの改ざん防止などサイバーハイジーンの維持が重要であり、企業は継続的な防御体制を構築する必要があります。」と述べた。



続いて、株式会社野村総合研究所　アーバンイノベーションコンサルティング部　持丸 伸吾氏が「インバウンドによる地域活性化」という演題で講演を行った。講演では、マクロ環境から見るインバウンドの動向として、2026 年は対前年微減となるものの、中国以外の主要なマーケット（訪日国）は引き続きプラ

ス成長であると指摘。そのような中で山梨県の課題は来訪を県内での滞在・消費に繋げることであり、世界のワインツーリズムの事例としてナパバレーとボルドーを紹介し、山梨は観光資源を滞在・消費につながる「エリアの観光商品」に束ねることが重要であると述べた。また、デジタル産業にできることとして「入口」「接客」「現場」の AI 化を挙げ、その役割は、山梨への来訪を滞在・消費につなげる「パートナーになる」ことであると述べた。



(株)野村総合研究所
アーバンイノベーション
コンサルティング部
チーフエキスパート
シニアプリンシパル
持丸 伸吾氏



JISA 会長
(SCSK(株) 参与
シニアフェロー)
福永 哲弥氏

最後に JISA 福永 哲弥会長（SCSK(株) 参与 シニアフェロー）より メッセージとして、「本年 5 月に JISA は「AI 共生宣言」を発出し、人間の能力を極限まで高める社会の実現を目指しています。しかし、AI の悪用による不正アクセスの脅威が増大しており、社会の安心安全を守ることは業界の喫緊の使命です。経営者はセキュリティ対策を最優先し、顧客に対しても安全性の重要性を粘り強く説く必要があります。また、システムエンジニアにはプラスセキュリティの素養が不可欠です。我々は意識を新たに事業の高度化を図っていく必要があります」と述べ、講演会を締めくくった。



山梨県議会議長
宮本 秀憲氏

講演会の後は懇親会が開催された。最初に来賓の山梨県議会議長 宮本 秀憲氏より挨拶があった。

続いて津軽三味線の演奏があり、公益社団法人千葉県情報サービス産業協会 理事 水上 明美氏が乾杯の挨拶を行い、歓談へと移った。



千葉県情報サービス
産業協会 理事
水上 明美氏

JISA 副会長（株式会社ワイ・シー・シー 代表取締役社長）長坂 正彦氏の中締めで盛会のうちに閉会した。 （事務局）



JISA 副会長
((株)ワイ・シー・シー
代表取締役社長)
長坂 正彦氏

